



学校だより

深谷

令和5年11月30日

12月号

横浜市立深谷小学校

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fukaya>

「聞く」ことは「受け容れる」こと

児童支援専任 翁川 賢太

「人の話をしっかり聞きましょう。」

学校では、子どもたちによくこのような声かけをします。多くの子どもたちは、人の話を聞くことが大切なことであると認識していると思います。では、なぜ人の話を聞くことが大切なのでしょう。「話が聞ける」ということは、子どもたちにどのような影響をもたらすのでしょうか。以前、高学年の担任をしていたとき、子どもたちに話す立場と聞く立場の気持ちを考えてもらうために、授業で次のような内容の活動をしたことがありました。

活動の流れ

○ペアを作り、話し手と聞き手に分かれて聞き方を変えて3回話をする。

○話の後、話し手は話した感想を聞き手に伝える。

○役割を入れ替えて繰り返した後、学級全体で感想を共有し、考えを深める。

1回目の聞き方…話し手と目を合わせず、何の反応もせず話を聞く。

2回目の聞き方…話し手を見て、うなずいたりあいづちを打ったりしながら話を聞く。

3回目の聞き方…「でも」「だって」「だけど」などと反応をしながら聞く。

話し手から、「1回目は、話づらい・つまらない。2回目は、話しやすい・楽しい・気持ちよい。3回目は、話は続くが、少しいらいら・もやもやした。」という感想が多く出ました。聞き方が、話す人の「話しやすさ」や「話しているときの気持ち」に影響を与えることを、子どもたちは実感していました。

このことを人権という視点から考えてみます。「話をしっかり聞いてもらえる」とき、人は話しやすく、気持ちよく話すことができます。これは、「自分が受け容れられている」と感じ、安心して話ができたといいことではないでしょうか。話に耳を傾け、しっかり聞くことができるようになれば、相手を尊重したり大切に思ったりする気持ちが生まれ、受け容れられるようになっていくでしょう。その過程で、自然に柔らかい言葉を使うようになり、思いやりの気持ちが育まれていったりすることも期待できます。「聞く」とは、相手を「受け容れる」行為でもあるのです。

今年度の学校スローガンである「みんなを思いやる深谷っ子」の達成に向けて、様々な取組をしてきています。人権週間では、様々な視点から人権について考え、子どもたちがそれぞれの個性を認め合い、お互いの存在を大切にしようとする姿勢を育みます。

私たち教職員は、これからも子どもたちの話に耳を傾け、一人ひとりを大切にしながらチーム深谷となって安心して学校生活を送ることができるよう努めます。保護者や地域の皆様には、いつも子どもたちを温かく見守っていただき、ありがとうございます。今後とも本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。